令和5年度　　学校評価自己評価表　（最終評価）

三次市立和田小学校

【学校教育目標】 確かな学力を身に付け，他者との関わりを通して，自らを伸ばそうとする子供の育成
（1） 確かな学力を身に付け，主体的に学び合う児童
（2） 自他を尊重し，豊かな感性と社会性を身に付けた児童
（3） 基本的な生活習慣を身に付け，健康でたくましく生きる児童

【めざす子ども像】
≪知≫ ⇒ 学ぶ喜びを感じる子，考えを表現する子　　・・・【学ぶ子】
◎ 生きて働く知識・技能の習得（知識・技能）
◎ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等の育成（思考力）（判断力）（表現力）
≪徳≫ ⇒ 自分の夢や目標に向かって挑戦する子　　・・・【挑戦する子】
≪体≫ ⇒ 他者を思いやり，認め合う　　・・・【思いやる子】
◎ 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力，人間性等の涵養（主体性）（協働性）

【使命・存在意義】
なりたい自分の夢の実現のために，和田のひと・こと・ものとの対話を通した多様な体験活動を通して，ふるさと和田への郷土愛を育むとともに，変化に対応して生きる力を身に付けた人材の育成に貢献する。

【評価基準】　（達成値）÷（目標値）×100の値
A：目標を達成（100以上）　B：目標をほぼ達成（85以上100未満）　C：目標を下回る（75以上85未満）　D：目標を大きく下回る（75%未満）

	中期経営目標	短期経営目標		具体的な取組・方策	評価項目	中間目標値	最終目標値	中間評価（10月）	最終評価（2月）	結果と課題の説明	改善計画	関係者評価	（ご意見）学校関係者評価　A：適切　B：不適切　C：改善が必要
確かな学力の定着	確かな学力を身に付け，主体的に学ぶ児童の育成	基礎・基本の力， 活用力の定着	1	・分かりやすい授業，個に応じた指導により，基礎・基本の力を確実に身に付ける。 ・ＩＣＴ等の活用により，思考を深め，表現するとともに，学びを整理・蓄積する。	・児童アンケート「授業が分かる」85%以上	85	85	A	A	・児童アンケート「授業がよくわかる」の結果は，平均96%で，全学年が目標値（85%以上）を上回った。	・引き続き，児童の発達段階に応じて，ICTを活用し，思考力・表現力を育てるようにしていく。 ・巡回相談等，関係機関と連携し，個の特性に応じた手立て・支援を行う授業を実施する。	A	・授業参加を通して，先生方の工夫されている様子が分かりました。 ・目標値を大きく上回っており，先生方の取組の成果だと思われる。
					・単元末テスト（国算理）「思考力・判断力・表現力」における基準（70%）以上の児童の割合85%以上	80	85	A	A	・3教科の平均では，2，4，5，6学年で達成できた。 ・理科はどの学年も目標を達成することができた。思考力・判断力・表現力はついてきている。 ・算数は全学年が目標を下回っている。個別に指導が必要な児童がいる。	・整数・小数・分数の基礎的な計算の力を身に付ける。 ・身の回りにある長さや重さ，小数等に着目させ，日常の事象と学習したことを結び付けた指導を行う。 ・具体物や図等を用いて，自分の考えを説明できるようにする。 ・1～4年生の算数の指導を複数体制で行う。 ・日常生活の事象から問題を見いだしたり，既習事項を活用しながら解決したりする授業づくりを行う。また，学習したことを生活の中に生かすことができる単元構成，数学的な見方・考え方を意識した授業づくりを行う。	A	・理科の研究成果が，他の教科の授業改善につながっている。
		主体的な学び	2	・児童に疑問や気付きをもたせ，解決の目的を明確にした授業を仕組む。	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」85%以上	80	85	B	A	・職員アンケート「見方・考え方を働かせた授業の実施」の結果は，平均100%。 ・児童の疑問や気付きを捉え，児童の見方や考え方を働かせるように工夫している。	・引き続き，理科で取り組んでいる課題発見解決学習を全ての学習で取り組む。 ・日頃の授業から，自分で解決方法を考えたり，友だちから出た様々な考えの中から最適な解決方法を選んだりしながら学習に取り組ませる。 ・支援の必要な児童には，ペアトークや話し合い活動の中で解決方法を見出させることにより，達成感をもたせ，次への学習意欲へとつなげる。	A	・教職員の意識が高いことが，授業アンケートや学力調査の結果につながっている。
					・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」80%以上	80	80	A	A	・児童アンケート「解決方法を考えながら学習を進める」の結果は，平均97%で，全学年が目標値（80%以上）を上回った。		A	
豊かな心の育成	自他を尊重し，豊かな感性と社会性を身に付けた児童の育成	人を思いやる心の育成	3	・読書を推進するとともに，道徳など教育活動全般において，人を思いやる心を育む。	・読書目標冊数（低：月8冊，高：月4冊）を達成した児童の割合75%以上	75	75	A	A	・読書目標冊数達成率75%【9月：67%，10月：73%，11月：72%，12月：72%，1月：86%】 ・図書推進委員と連携し，図書室の充実を図ったり図書委員会が主体となって図書の読み聞かせやコーナー作りを行ったりしたことが，児童の読書活動の活発化につながった。 ・読書記録目標達成者の表彰を継続して行うことで，児童の読書意欲の継続を図ることができた。 ・上半期の読書記録の結果や各学年での読書活動の交流を行うことで，教職員の間での読書推進の意識をより高くもつことができ，達成率が上がった。 ・依然として学年により読書活動に偏りが見られる。	・これまでの取組を継続するとともに，児童自身が読書の楽しさや達成感を感じられるような活動の推進を学校全体で行う。（職員・図書委員による読み語りの回数を増やす等） ・三次市立図書館や読み語りボランティアの方々など，外部との連携を密に図り，よりよい読書環境を整える。	A	・読書がしたくなるような図書室の環境設定がされ，学級文庫も充実されていると思いました。 ・図書に親しむ環境も整えられている。
					・児童アンケート「自分や友達のことを大切にしている」80%以上	80	80	A	A	・児童アンケート「友達に悪口を言ったり，嫌がることをしたりしない」 全体達成率82% 【1年生：79%　2年生：78%　3年生：80%　4年生：86%　5年生：67%　6年生：100%】 ・児童アンケート　「自分が悪いと思ったら，自分から謝ることができる」達成率86% 【1年生：93%　2年生：78%　3年生：90%　4年生：71%　5年生：100%　6年生：85%】 ・道徳科や特別活動を中心として，教育活動全体でソーシャルスキルを身に付ける学習を行ったので，相手の気持ちに立った言動の判断を自分でできるようになった児童が増えた。	・引き続き，教育活動全体でソーシャルスキルを身に付けさせ，相手の立場に立って行動できるよう，また，児童自身が相手に自分の思いを伝えて問題解決ができるような指導を行っていく。 ・児童会活動でのふわふわ言葉やありがとうカード等の取組を通して，自己肯定感や自己有用感を高められるようにする。	A	・実際に「ふわふわ言葉」を書いた掲示物があり，児童の意識付けにつながると思いました。 ・5年生は，「友達に悪口を・・・」の評価がた学年と比べて低いが，「自分が悪いと思ったら・・・」の評価が100%なので，その分，指導がしっかり入っているのだなと思った。
		人権意識，自己有用感の向上	4	・縦割り班活動，委員会活動，学級活動等で他者と協働して取組む。	・児童アンケート「レベル3（相手の目を見て）の挨拶ができた」80%以上	80	80	B	A	・レベル3の挨拶　児童肯定的評価　94%（そのうちレベル3の挨拶がいつもできている　46%） 指導者肯定的評価　45%　保護者肯定的評価　94．1% ・半数の児童がレベル3の挨拶ができている。学期末に挨拶の達成率と保護者による街頭指導の挨拶に関する肯定的な評価を知らせることで，児童と共有ができた。また，和伸会による挨拶運動の実施や挨拶の旗を掲示することで意欲向上へとつながった。 ・指導者肯定的評価の割合が低い。相手より先に進んで挨拶ができていないと感じている職員が多い。「相手より先に」という部分において，児童と指導者でレベル3の挨拶の認識のずれがある。	・保護者肯定的評価が高いことから登下校での挨拶はよくできているので，引き続き肯定的評価を児童に伝えながら，挨拶の推進を図る。 ・来校者へも自分から進んで挨拶ができるよう，機会を捉えて指導していく。 ・レベル3の挨拶について，「相手の目を見て」というところに重点をおいて，年度初めに挨拶の取組について全体で共有を行う。 ・高学年を中心に，手本となるレベル3の挨拶を推進し，学校全体の挨拶の志気を高める。	A	・和田の子は，中学生も良く挨拶をしている。小学校の取組の成果がつながっている。
					・児童アンケート「学級や学校の役に立っている」80%以上	80	80	A	A	・児童アンケート「学級や学校のために進んで自分の仕事をしていますか」 児童肯定的評価　89%　　指導者評価肯定的評価　82% ・自分の仕事に対して，前向きに取り組んだり，友達と協力して取り組む姿が見られた。	・引き続き，指導者による肯定的評価を行うとともに，児童主体の取組となるよう声をかける。	A	・適切な評価が与えられているからこそ，実感があるのであろう。
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を身に付け，健康でたくましく生きる児童の育成	基礎体力の向上	5	・体育科の授業，委員会等の児童の主体的な取組により，体力づくりを進める。	・職員アンケート「体育科の授業，委員会，体育的行事の充実」85%以上	85	85	B	A	・職員アンケート「体育科の授業の充実」は，90.4% ・どの学年も，授業開始前にサーッキト・トレーニングを取り入れ，授業のめあてを提示している。また，児童実態に合わせた運動内容（コースを分けるなど）の取り組みや，基礎体力向上を意識した指導を全学年で行っている。 ・上半期は，授業の振り返りの取組みができていたのは33．4%だったが，下半期はワークシートの活用や児童同士の意見交流，ICTの活用など授業の振り返りの取組を83.3%ができていた。 ・12月に，三次市教育委員会の指導主事を招へいし，基礎体力向上のための全校体育を実施した。 ・委員会活動においては，全校体育で学習した内容をもとにストレッチトレーニング動画を作成し，全校の基礎体力向上に努めた。だが，トレーニング動画を体育の授業等で活用している学年は66.7%であった。	・引き続き，児童実態に合わせた指導や，各単元ごとの振り返りを取り入れる。 ・他学年の授業の振り返り方法や内容について交流する機会を設け，振り返りの質の向上を図る。 ・保健委員が作成したストレッチ動画を，体育の準備運動等に取り入れるように声掛けをする。	A	
		基本的な生活習慣の確立	6	・メディアの使用の仕方を自ら管理し，健康な生活を送る。	・児童アンケート「家でのメディアルールが守れている」80%以上	80	80	A	A	・児童アンケート「家でのメディアルール（10月～1月）」が守れている児童は83.8% 【学年別結果】1年88%，2年83%，3年81%，4年82%，5年85%，6年85% ・「わが子はメディアルールを守っている」については，72．5%。 「メディアルールが守れている」に関して，児童の評価と保護者の評価に差はあるが，前期の評価より，ともに数値が上がっている。 また，各学年の達成率も上がっており，「メディアルールを守ろう」とする意識が高まったと考えられる。	・引き続き，各家庭でメディアルールを作成してもらい，「ルールを守る」姿勢を育んでいく。 ・「おうちメディアルール」作りでは，必ず保護者と一緒に相談して作ることを，保護者に呼びかける。	A	・ルールの中身も少し気になるが，意識はできている。
					・保護者アンケート「わが子の使用実態を把握している」80%以上	80	80	A	A	・保護者アンケート「わが子のメディア使用実態を把握している」については，84．3%	・「おうちのメディアルール」の記入方法を見直し，児童と保護者の振り返りを書く欄を設ける。	A	・各家庭での実際の把握と健康等の実態をしっかりと見ながら取り組む。 ・何をもって「実態を把握する」と保護者が思っているかが気になる所ではある。
信頼される学校	保小中高の連携を進め，保護者，地域から信頼される学校	家庭・地域と連携・協働した教育活動の実施	7	・小中一貫教育を基盤とし，地域・保護者と連携・協働して教育活動を推進する。 ・学校評価を学校運営に生かす。	・外部関係者を招聘した教育活動各学年２回以上	年2回	年2回	A	A	・外部関係者を招聘した教育活動は，各学年ともに計画的な推進（年2回以上）ができており，児童は学習のねらいに沿った学習を深めることができている。 ・地域での学習（1年綿花づく・さつまいもの栽培，2年ぶどう作り体験，3年西平牧場・そば作り，4年国兼川の学習，5年米作り・和田狂言太鼓，6年寺町廃寺の学習・租税教室）については，地域の協力により児童の探究的な学びが推進できている。	・地域の学部講師を招聘した教育活動は，各学年ともにコアカリキュラム・オリジナルカリキュラムに沿って，計画的に推進できている。今後も，学習のねらいを焦点化して継続していく。 ・これまで続けてきたからということで，継続している学習活動については，再度，育てたい資質・能力を明確にし，精査していく必要がある。	A	
					・保護者アンケート「教育活動に関する肯定的評価」80%以上	80	80	A	A	・保護者アンケートにおける「教育活動に関する肯定的評価」については，93．4%と目標達成している。特に，「教職員は熱心に取組んでいる」は98．1%，「力を伸ばす授業が行われている」は92．2%と，教職員の児童への向き合い方や授業力の向上には高い評価を受けている。 ・学校だより（月1回），学校HP（毎日）の発信を行い，学校の教育活動や児童の様子を積極的に保護者へ伝えている。また，学校からの通知や学級通信等を連絡通信アプリtetoruで配信し，見落としや配付漏れ等も防止できている。	・保護者による学校アンケートの結果から，本校の教育活動に対し肯定的な評価を受けている要因や背景（学力向上，組織的な対応，細かな保護者連携等）を明らかにし，より取組の強化を図っていく。 ・学校からの情報発信については，今後も積極的・意図的に取組を進めていく。また，tetoruの活用についても保護者への理解を図りながら推進していく。	A	・普段の取組の成果によるものと思われる。
		働き方改革の推進	8	・業務改善の推進，職員のタイムマネジメント力の向上を図る。	・職員の超過勤務 月45時間以内80%以上	80	80	A	A	・1か月の超過勤務時間45時間以内の教職員の割合は，4～1月末までの全月100%と十分な成果が見られる。 ・昨年度に引き続き，校務の見直しを行うことにより，教職員の働き方に対する意識改革を図った。また，児童にとっても教職員にとっても，ウェルビーイングな学校を目指し，働き方に対する取組を行った。全教員が，3連休前後をさらに1日の計画年休取得ができるように組織的に取組み，よりリフレッシュが図られるように取り組んだ。 ・現在の働き方や校務の見直しについてのアンケートを実施し，本校の課題を把握・整理するとともに，働き方に対する意識の改革を図り，校務のさらなる見直しの視点を明らかにすることができた。現在の状況に満足することなく，さらに児童にとっても教職員にとってもウェルビーイングな学校を目指し，具体的な業務改善を進めていく。	・1か月の超過勤務時間45時間以内の教職員の割合は，年間を通して100%の教職員が達成でき，教職員の働き方に対する意識変革は図られている。しかし，持ち帰り仕事や休日出勤等の状況も見られるため，さらに詳細な実態分析を行い，日課や家庭学習の見直し等，具体的な業務改善を進めていく。 ・3連休前後の計画年休取得をはじめ，心身ともにリフレッシュにつながる年休取得を年間計画に組み込み，組織的・計画的に取組を進める。	A	・良い取組をしておられ，本校においても是非参考にしたい。